

議員全員協議会

日 時	令和 4 年 1 月 17 日（月） 閉会中	8 時 54 分 開会 10 時 25 分 閉会
場 所	相良庁舎 4 階 大会議室	
出席議員	議長 16 番 植田博巳 副議長 15 番 村田博英	
	1 番 石山和生	2 番 谷口恵世 3 番 絹村智昭
	4 番 名波和昌	5 番 加藤 彰 6 番 木村正利
	7 番 松下定弘	8 番 種茂和男 9 番 濱崎一輝
	10 番 原口康之	11 番 大井俊彦 12 番 太田佳晴
	13 番 中野康子	14 番 大石和央
欠席議員		
事務局	局長 原口 亨 次長 本杉裕之 書記 大塚康裕 書記 本杉周平	
説明員	市長、教育長、建設理事、総務部長、企画政策部長、政策監 健康推進部長、地域医療係長、秘書政策課長、産業経済部長	
傍 聴		

署名 _____ 議長

[午前 8時54分 開会]

開会の宣告

○議長（植田博巳君）

皆さん、おはようございます。ちょっと時間は早いですけれども、全員お集まりですので、ただいまから議員全員協議会を始めさせていただきます。

トンガの海底火山が爆発ということで、こちらにも12時過ぎですか、津波注意報が発令されて避難地をちょっとのぞいたんですけど、やっぱり注意報だと、寒いし、なかなか避難する方はいなかったと思います。

それから、今日が阪神大震災から27年目ということで、それから蛭ヶ谷にも農機小屋が火事になって見に行ったんですけども、裏山に延焼しなくてよかったなというふうに思っております。いま一度、災害に対する備えをしなくてはいけないなというふうにも実感したところであります。

それでは、ただいまから議員全員協議会を始めさせていただきます。

2 市長報告

○議長（植田博巳君）

最初に、市長報告からお願いします。

市長。

○市長（杉本基久雄君）

皆さん、おはようございます。

まず初めに、1月4日の牧之原市新春初顔合わせ会につきましては、ご臨席をいただきまして誠にありがとうございました。国会議員をはじめ、「静岡まきのはら大使」加藤桃子清麗にもご参加をいただき、市内企業や団体代表者、行政、教育関係者など250名が集い、顔合わせをしてお互いの挨拶を交わすよい機会とすることができました。この席で執り行いました功労表彰の個人6名と感謝状贈呈の個人2名、法人1社につきましては、市ホームページ、広報まきのはら2月号でも紹介しておりますので、よろしく願いいたします。昨日の静岡新聞の朝刊にも掲載をされました。

それでは、私のほうから報告案件、少し多いですが、6件ほどございますので、配布の資料によって説明をさせていただきます。

まず、昨日の津波の注意報への対応についてであります。気象庁によりますと、日本時間の1月15日土曜日午後1時10分頃、南太平洋トンガ諸島付近のフンガトンガ・フンガハアパイ火山が大規模噴火をいたしまして、この大噴火に伴う潮位変化が各地で観測をされたところあります。気象庁は今回の潮位変化について、地震に伴い発生する通常の津波とは異なるけれども、防災上の観点から津波警報、注意報の仕組みを使って発表、防災対応を呼びかけたということであ

ります。昨日は予定されました初めての日本語教室、シーサイド・マルシェ・サガラ、学校部活動、資源回収を中止するなどの報告がございましたが、市内での被害は確認をされませんでしたので、ご報告をいたします。

以下は、津波注意報発令から解除までの経過を記載をさせていただきましたので、後ほどご覧をいただければと思います。

続きまして、新型コロナウイルスの感染症についてであります。オミクロン株の急速な感染拡大により第6波に突入し、さらなるまん延への懸念が強まっています。全国的に感染が拡大する中、政府は、沖縄県、山口県、広島県の3県に9日から今月末までのまん延防止等重点措置適用や医療体制の構築、ワクチン確保などの対応を進めております。

当市においても、今年に入りまして5日、昨年9月26日以来となる新規感染者が確認をされ、以降21例、これは1月5日から15日までの間ですが、新規感染者が確認されております。昨日は感染者の発表はございませんでした。11日には市内4例目となるクラスターが発生しましたが、県は濃厚接触者全員の検査を実施いたしまして、陽性者5名以外の陰性を確認済みということで、陽性者と接触した可能性がある者も特定されているということから、事業者名は公表しないということでごございました。

市民の皆様には、引き続き三密の回避、人と人との距離の確保、マスク、手指衛生などの基本的な感染防止対策の徹底と人の行動や人に会うことには感染リスクが伴うことを忘れずに慎重に行動していただくよう注意喚起をしております。

3回目のワクチン接種につきましては、現在医療従事者、高齢者、入所者などの接種を行っており、引き続き一般高齢者の接種を2月1日火曜日から2回目接種後7か月以上経過した方から開始するよう進めており、本日17日から順次接種券を発送し、お早めの予約をお願いするようご案内をしております。そして、首相が表明をいたしました前倒し接種の方針につきましては、先週13日木曜日に厚生労働省から原則8か月としてきた2回目からの接種間隔を3月以降、一般高齢者は6か月に、医療従事者や高齢者以外の一般の人は7か月に短縮する旨の通知がございました。64歳以下の方については、先週の文教厚生委員会協議会で健康推進部から説明がありました。5月上旬から2回目接種後8か月を経過する方から接種を予定しておりましたが、この通達を受けまして、前倒しをして対応していくよう準備をしております。国からのワクチン供給のスケジュールの前倒しによりまして、市に供給されるワクチン量を見ながら柔軟に対応していきたいと考えています。

接種等の詳細は、接種券送付の通知に加え、随時ホームページやLINE等でお知らせをしております。

続きまして、新型コロナウイルス感染症対応の地方創生臨時交付金の追加配分についてであります。この交付につきましては、国の令和3年度の補正予算に6.8兆円が計上され、うち1.2兆円が地方単独分、0.3兆円が国庫補助事業の地方負担分として示されました。現在、当市においては地方単独分として感染症対応分、地域経済対応分と合わせ、1億5,820万円の内示をいただい

ている状況であります。今回の配分額を含む令和3年度配分額は以下の表のとおりであります。後ほど、ご確認をいただきたいと思っております。

今回の配分額に対します対象事業といたしましては、従来の新型コロナウイルス感染拡大の防止及び感染拡大の影響を受けている地域経済や住民生活の支援等を通じた地方創生に資する事業に加えまして、今回、経済対策に「未来社会を切り拓く新しい資本主義の起動」が追加をされました。

内示を受け、私からは職員に対しましてウィズコロナ、アフターコロナ時代を見据えた継続的な取組とするよう、クリーンエネルギー戦略やスタートアップ支援、デジタルトランスフォーメーションの推進、農林水産、観光などの市内産業や教育文化、スポーツの活性化に向けた支援、また、人材育成や多様な人材の活躍支援、子育て等々の公的支援機能の強化など、成長戦略、分配戦略への積極的な事業投資に交付金を活用していただくよう、各部署へ指示をしたところであります。

今回の配分額につきましては、地方繰越となる令和3年度開始事業及び本省繰越とする令和4年度開始事業として調整をし、3年度補正、4年度当初予算として対応してまいりますので、よろしくお願いをいたします。

続きまして、令和4年度の当初予算についてであります。総務省が昨年暮れに示しました令和4年度の地方財政対策では、税収の伸びが見込まれるとともに、地方交付税財源の不足分に充てられる臨時財政対策債の大幅な減少が予定されています。税収増など全国的な見込みが当市にも当てはまるものかどうかは、引き続き慎重に精査する必要があります。今後、発表される国の地方財政計画や県の予算措置状況を注視しながら、令和4年度の予算編成の詰めを行いたいと思っております。

現在、第3次査定を行っております。1月下旬には当初予算を編成し、企画政策部より2月9日水曜日の総務建設委員会協議会において、予算案の最終状況を報告させていただく予定でありますので、よろしくお願いをいたします。

続きまして、リニア中央新幹線静岡工区有識者会議の中間報告についてであります。この中間報告につきましては、大井川の水資源問題に関する中間報告、2021年、令和3年12月19日については、今週20日の木曜日、流域10市首長と利水団体代表者、副知事で構成する大井川利水関係協議会が県庁で開催され、中間報告の内容認識の共有と意見交換の会議がありますので、出席をしております。ウェブに変更になるかもしれません。

国のリニア中央新幹線の静岡工区の有識者会議の趣旨であります。静岡県とJR東海の間で行われてきた、これまでの議論を踏まえまして、まずは、トンネル湧水の全量の大井川の表流水の戻し方と、トンネルによる大井川中下流域の地下水への影響という、特に大きな二つの論点について科学的、工学的な議論をすることです。この中間報告で示されました、トンネル掘削による中下流域の地下水量への影響は河川流量の季節変動や毎年の変動による影響に比べ、極めて小さいと推測されるとの取りまとめにつきましては、以下の3つの論点により議論されたということでご報告しております。

まず1点目、大井川の流域の流況であります。中下流域の地下水の主要な涵養源は地下水等の科学的な成分分析、溶存イオン分析等の結果、水質の組成、特性の比較から、近傍の降水と中下流域の表流水によるもので、上流域、樺島以北の地下水によって直接供給されているわけではないというふうに考えるというふうに報告されたところであります。

そして、トンネル掘削に伴う中下流域の地下水への影響であります。この地下水の低下につきましては、南下流域に行くに連れて小さくなる傾向があり、トンネル湧水を導水路トンネル等で全量が大井川に戻せば、中下流域の河川流量は維持される。また、水収支計算上の上流域から地下を流れ続けて、中下流域の地下水となる移動量、流況量につきましては、0から1億立米／年は、降雨量、河川流量等の観測値や、蒸発量の推計手法が有する不確実性、誤差に相当する大きさ、いわゆる誤差だというような言い方をしております。

それから、3点目に工事期間中のトンネル湧水の県外流出の影響であります。この工事期間中において想定されるトンネル湧水量が県外流出した場合においても、それ以上の量の山体内に貯留されている量を含めた地下水がトンネル湧水として導水路トンネル等を通して大井川に戻されるため、中下流域の河川流量は維持される。分かりにくいので少し補足をいたしますが、山梨県側工区のトンネル湧水は流出をするが、別の県内の工区のトンネル湧水が大井川に戻されることで、中下流域の河川流量は維持されるというような報告でございます。

この報告の中で、推計されたトンネル湧水量は確定的なものではないこと。また、突発湧水等の不測の事態が生ずる可能性など、リスクへの対応やモニタリング体制の構築、情報共有の在り方や静岡県や流域市町等に対する丁寧な説明の必要性についても言及をしております。

斎藤鉄夫国土交通大臣は、この中間報告を受けまして、昨年12月21日に金子JR東海社長に対し、中間報告書の内容を十分理解するとともに利水者等の不安や懸念を再認識し、今後、静岡県や流域市町等と双方向のコミュニケーションを十分行うなど、真摯な対応を継続すべき旨指導をしているところであります。

本市といたしましては、国内、現在では有数の専門識者による科学的、工学的な議論を経て示された中間報告でありますので、この報告自身については尊重を受け止めるものであります。理解をすとか、納得するということではなくて、こうした有識者による中間報告ということについては尊重するというものであります。

詳細のところにつきましては、再度、県の地質構造・水資源専門部会で検証、議論をすることとなっておりますので、こちらの結果を待ちたいというふうに考えております。

利水関係協議会の席ではモニタリング体制の構築や不測の事態が生じた場合の対策やその担保、補償の必要性などについて確認してまいりたいと考えております。

以前、議員全員協議会の席で、リニア中央新幹線建設工事静岡工区に係る水資源問題について有識者会議中間報告での取りまとめ内容を中心に市民勉強会の年度内開催を調整していくとお知らせをしておりますが、現状のこのコロナ第6波突入に鑑みまして、当面実施を見送りますので、ご承知おきいただきますよう、よろしくお願いをいたします。

続きまして、結婚支援施設ふじのくに出会いサポートセンターについてであります。静岡県と県下市町が運営するふじのくに出会いサポートセンターが先週10日、静岡市御幸町にオープンをいたしました。

結婚を希望する人にご登録をいただき、AIによるビッグデータ分析を活用し、お相手探しから安心な出会いを提供し、静岡県で暮らす二人の未来をサポートしますと。ご縁がつながった後も、ご希望に応じて交際に向けてのアドバイスや交際中の悩み事など、様々な相談に対応いたします。登録には顔写真や身分証明書などの書類と面談が必要で、サポートセンタースタッフが対応いたします。

会員登録は10日から開始しており、事業登録は1年間1万円、2年間で1万6千円となりますが、現在令和4年4月1日からのマッチング開始に向け、登録促進キャンペーン中で、令和4年3月31日までに登録を完了した場合は1年間無料で利用をいただけます。

県下市町がそれぞれ登録促進に取り組んでいるわけですが、牧之原市ではサポートセンタースタッフによる出張登録相談会を2月6日、日曜日午前9時から午後5時、総合福祉センターさざんかで実施をいたします。相談は完全予約制でプライバシーに配慮し、個別に会員登録サポートや結婚相談に対応いたします。現在、ホームページやLINE、フェイスブックで告知を行っているところでありますが、市議会の皆様にも身近にいらっしゃる関心がありそうな方へお声かけをいただくなど、ご支援くださいますよう、お願いを申し上げます。

私からは以上でございます。

○議長（植田博巳君）

市長報告が終わりました。市長の今の報告に関する質問がありましたら、挙手をお願いします。太田議員。

○12番（太田佳晴君）

1点、リニア中央新幹線の関係なんですけれども、中間報告ということで市長のほうから報告がありましたけど、先週、大井川上流の長島ダムへ市長も一緒に牧之原畑総の関係で視察に行ったんですけれども、今、非常に例年に比べて水位が低いということで、非常に心配なお話を聞きました。

そういったことで、いろんな今回の報告もそうなんですけれども、これって基本的には、やはりトンネルを掘ることを前提とした取りまとめなんですけれども、我々はどういった説明、いろんなものを見ても、専門的で実際には分からない。これが分かる人というのは、ほとんどいないと思うんです。

それで、心配なのは、最近特に全世界で異常気象ということで、今までの、この内容を見ても、過去のデータに基づいて大丈夫だということなんですけれども、それが通用しない世界的な気象異常というものが発生しているものですから、私は基本的にあそこを掘ること自体が、そもそも間違っているというふうに思っているものですから、今後どういふようになっていくか、非常に心配なんですけれども、やはり最近いろんな人から、とにかく議会としても頼むぞというような

ことを言われるものですから、こういった場で市長に対して意見するしかないんですけども、特に首長の皆さん方、その流域の10市町の首長でどうするかということ、やはり聞くだけではなくて、今後、首長としてどういう姿勢でいくかということ、明確なものを出していただきたいなと思うんです。我々議会も、3年ほど前になりますけれども、関係の自治体の議長、連名で県に対して要望書を出してあります。それは、基本的には首長と知事と歩調を合わせるというようなことが基本なんですけれども、やはりもっと具体的なものをそろそろ出す時期に来ているんじゃないかと思うんですけれども、その辺について市長はどのようにお考えでしょうか。

○議長（植田博巳君）

杉本市長。

○市長（杉本基久雄君）

私も、先ほど申しましたように、今回、今現状で日本を代表する有識者の皆さんが議論をして、これはJR東海が出した、いわゆる計画といいますか、分析を検証したというようなことでありますので、そういった意味の中で、決してこのお墨つきを出したわけでもないわけですね、ということ。それから、我々が、今回この有識者会議が行った見識を、これはこうでああでという、これを覆すような、いわゆる専門知識がないわけですね。ただ、不安は不安。いわゆる安心できるかできないかというところだと思うんですね。ですので、先ほど申しましたように、これから県の有識者会議が行われる中で、さらにこの疑問点といいますか、そういったものを追求していく専門家がいて行っていくわけですね。

そういった中身を見つつ、本当にこれで押し切ってくるのかどうか分かりませんが、我々とする、本当にこの、私が一番心配しているのは、あくまでも水が戻るといいますか、減らないという根拠には、導水路トンネルでもって人工的に水を戻す。そのことによって表流水、地下水は減らないということが一番だと思うんですね。それが止まってしまったら何もならないということですから、それをやはりJR東海だけではなくて、私は国が、国交省が、いわゆる認可する以上、国がやっぱり責任を取るといことと、国がお墨つきを出すということが、最低条件だというふうに思っています。そういったことを、これから流域市町とも話をしていくことになりますけれども、そういったことで、そのほかの、仮にもし造るとなるならば、様々な経済効果、地域にとっての経済効果も含めた、そういった提示も必要じゃないかというふうに思っているところですので、これから県の有識者会議等が行われる中での議論、あるいはそういった中での見解について注視をしていきながら、流域市町と歩調を合わせていくということが重要じゃないかなというふうに思っております。

○議長（植田博巳君）

太田議員。

○12番（太田佳晴君）

いずれにしても、市長のほうもなかなか具体的にこれがどうだというのは判断できないということなんですけれども、既に国会議員の政治家もこれは政治問題ではないというようなことも言

って、ある意味逃げ腰というか、そんなふうに感じます。ただ、私はそういった専門的なものはなかなか判断できない以上、これは政治判断である、まさに政治問題だと私は思います。そういったことで、去年ですか、山梨県のほうへ、リニアの試験のやつを市長も一緒に行ってもらって、議会で視察に行ったときに、確かに現場を、全量水を戻してそれでこれだけ川のほうも大丈夫ですというのを見させてもらったんですけど、私はあ那时候、周辺の山裾の木が枯れているのを見たとき、これってやはり、水って簡単に全量戻せば済む問題じゃなくて、いろんな水道があって生態系というのは大きく影響しているんだなど、そんなふうに思いました。

そういったことで、ぜひとも冷静な判断を静岡県としてできるように、またぜひとも首長さんで、こうするだってもうぼちぼち意見を持ってもらいたいなど、そんなように思いますので、またよろしく願いいたします。

○議長（植田博巳君）

杉本市長。

○市長（杉本基久雄君）

あくまでも今回の示された中間報告は、樫島以下の下流域、これについて地下水や表流水は影響は極めて少ないというようなことを言うておりますが、今お話がありました、田代ダムの直上流では300メートル水位が下がるというようなことを、これはJRが最大を見越してということでもありますけれども、丹奈トンネル等のこれまでの実績といいますか、影響を見ますと、このトンネルを掘るためには、まず先に斜杭を掘って、今のあそこの水源といいますか、一番のところを水位を下げるわけですね。300メートル水位を下げないと、本溝が掘れないというふうに私はそういうふうに思っているんですが、そうすると、そこで今度トンネルができて、そこへそのトンネルを外にグラウトをして、止水をしても水道ができています。とすると、その水位が300メートル下がってしまった水位が元に戻るかというと、それは恐らく戻らないだろうというふうに思いますので、この樫島より上流の地下水の低下というのは、これからまさに自然環境の関係については有識者会議等で議論されていくということになりますので、まだまだ相当、この関係については私は時間がかかるんじゃないかなと思いますし、本当にそれが回避できるのかというのは疑問符がつきますね。

もう一つは、田代ダムに毎秒4.99トン、今、東京電力、山梨側に持って行ってありますが、これは恐らく取れなくなるだろうというふうに思っていますし、私も河川維持流量をあそこの田代ダムのところでしっかりと確保した上で田代ダムへ流す。流せる余裕があればですね。ということも、当然検討しているだろうというふうに思いますけれども、そうした問題がありますし、中部電力へ回す、いわゆる水力発電の水に関しても、恐らく今までより、ここの上流部については水底下によって不足するのは明らかだというふうに思っていますので、そういったことも含めて、これからまだまだ議論されていくことは山のようにあるだろうというふうに思っていますので、取りあえず今回の中間報告というのは、樫島から下流域に対して著しい影響はないというような見解だけだというふうに思っていますので、まだまだ課題は山積していると思いますので、そう

いった意味でしっかりと我々にとっても、この関係についてはこれからもしっかりと注視をしながら物申していかなければいけないなと思っております。

○議長（植田博巳君）

太田議員。

○12番（太田佳晴君）

最後に1点ですけれども、私はルート変更しか方法はないと思っているんですけれども、ルート変更について、前回参議院選、また衆議院選でも少し出ていましたけれども、それ以来全く出ていない。首長さんたちの中で、ルート変更について話が出たことってあるんですか。

○議長（植田博巳君）

杉本市長。

○市長（杉本基久雄君）

これまでの会議の中で、JRの金子社長との意見交換、あるいは県との意見交換の中では、そういったルート変更の話も出ています。今言ったように、これからの自然環境問題も含めたことを議論していくと相当時間がかかる。かえって、ルート変更したほうが問題解決は早いんじゃないかというようなことも意見としては出ています。

ですので、この辺をいかにして科学的、工学的な見解でもって迂回をさせるというところが、やはりそういった専門家の意見、見識、見解といたしますか、そういった検証が必要である。ただ感情だけで迂回せよというのは、なかなか通用しないのかなというふうには思っています。

○議長（植田博巳君）

ほかに。

中野議員。

○13番（中野康子君）

今のことにする件ですけれども、やはり長島ダムを見たときも随分水位が減っていてそのことで随分心配していました。世界的に今、お水が足りなくなっている中で、大井川の水の水量はかなり減少している現状の中で、地下水や流量の影響が少ないという推計だけで未来永劫きれいな水を残すというのは、私たちだけの世代じゃなくて、やっぱり次の人たちにもきちんとした形で残さなければいけない。これは私たちの役割だと思うんですよ。ですから、ぜひ5市2町、7市ですか、今、首長さん、それから議長のほうでも大井川のこの問題については統一した見解でやっていくということを出しています。ぜひとも、市長さんたち、国会議員の先生なんかも、このリニア新幹線については反対だとはっきり言っていらっしゃる中で、やはり市長さんたちもそういった中できちんとした市長さん同士での話合いというのをやっていただきたいなというふうに思っています。

中間報告の中ですので、これからの課題もたくさんあると思うんですけど、その点を一つお願いしたいのと、それから新型コロナウイルスの感染症についてですけれども、報道によりますと各自治体に2回までのワクチンの在庫が、ある程度残っているというような報道もありましたけ

れども、牧之原市の場合は、その点はどうなのでしょう。その辺をお聞きしたいと思います。

○議長（植田博巳君）

杉本市長。

○市長（杉本基久雄君）

水の問題に関しては、私も先日長島ダムに同行しましたがけれども、非常に三十数%、7%と言いましたか。あの状況を見ますと、少ない影響であっても、やはりいざというときには、我々の飲み水まで影響するよねというのは感じますし、自然環境の問題も大きいなというふうに思うんですね。

確かに今回、私もさらにあの上流に行きますと、畑薙第一、第二ダムがあって、それから井川ダムがあります。畑薙ダムや井川については6割ほど貯水量が、いわゆる貯水する部分ですね、上の山の山腹崩壊によって埋まってしまっているんですよ。毎年100万立米の土砂が供給されているんですね。ですから、あと10年や十数年で埋まってしまうんですよ。

ですので、これは私、県にも国交省にもお伝えをしていますが、リニア新幹線以前の問題として、やはり畑薙と井川のダムを健全な状態に戻す。それから、今、山腹崩壊を起こしている、あそこを止めればいいということじゃないと思うんですが、あの奥は非常に山が脆弱なんですね。崩壊しやすい地質なんですけど、ということもあって、止めたら、また横が崩れるのかもしれないけれども、やはり定期的に、少なからずとも毎年供給している100万立米、あるいはそれ以上の土砂の浚渫をやらないと、いざというときに、長島ダムに來ている水というのは、畑薙、井川から來ているんですね。ですから、本当に困ったときに畑薙、井川にたまっている水をこぼしてもらおうと、発電をやめて戻してもらおうというようなことができるわけですね、いざというときには。それが今できていないんですね。

ですので、私は少なからずとも、そういった問題や課題、これをしっかり片をつけた上で、最悪着工されるにしてもですよ、そういったその担保と先ほど私言いましたけど、そこはしっかり取りたいというふうに思っているんです。

ですから、やる前にしっかりこれはやれというようなことを国や県に要望していきたいというか、既に私は話をしていますが、国会議員に話をしたことがあるんですが、なかなか、いやそれは難しいねみたいなことを言うんですが、天竜川の佐久間ダムなんかについては、既に国が、いわゆる治水、利水の権限を、権利を一部持って毎年浚渫しているんですね。ですので、ダムの健全化、これをやっているんですね、持続可能なダムの維持管理というのを。これが今、畑薙、井川はやっていないんですよ。これが一番大きな、持ち物は中部電力の持ち物ですので、行政は口が出せないということなんですけど、そうではなくて、我々の大切な水がめであるし、大井川流域の治水、大雨が降るときには事前放流をしたり、あのダムがあるからこそ大井川下流域の安定といますか、氾濫とか堤防決壊を防いでいると、そういう目的もあるわけですから、そういった意味ではそこは最低限しっかりやらなければいけない。

今のこの温暖化の影響ですと、雨が降るときは降る。降らなくなったら3か月も4か月も降ら

ない。これも温暖化の影響なんですね。ですから、私、元旦というか正月、年始の賀詞交歓会のときにも言わせていただきましたけど、脱炭素化についても取り組む必要が、これあると思うんですね。ですから、そういった意味も含めて、様々な角度からこのリニアも含めて意見を申していかなければいけないなという危機感を持っています。

それから、コロナワクチンの関係なんですが、これは私は非常に、少し憤慨をしている部分がありましてね、国の対応が。いわゆる6か月前倒しとか、高齢者接種についても6か月というようなことを言っていますが、それで早い市町は、沼津市なんかは1月から前倒しをしているんですね。ところが、その状況って、余っているのは何だということを言いますと、もともと各市町、目標を持って今まで2回接種をやってきたわけですね、市民に対する。我々のところは8割を超えていますし、高齢者は95%を超えているということですから、我々が計画したワクチン量は、ほぼ使い果たしているんです。我々はしっかりとそれをこなしている。だけど、こなしていないところが、1、2回目をしっかりやらないところとか、いわゆるそういう勸奨をしないところには余っているんですよ。余ったところについては、どんどん前倒しをせいと。あたかも、基礎自治体間の競争を促して、早く打っている市町がすごくいい対応しているみたいなふうを受け止められたり、3回目の接種についても新聞報道とかにおいては、どここの市町が何月1日から前倒しをしますみたいな、ああいう品評会をやるんですね。

しかしながら、我々のところには本当に僅かな在庫しかないわけですね。国から示されてくるワクチンの供給というものは、2週間前にならないと実際のワクチンがどれぐらいというのは分からないんですね。

ですので、我々とする、前倒しをして受けてしまったはいいいけれども、いざそのときになったらワクチンないのでごめんなさいというわけには、これいかないわけですね。ですので、生ぬるいみたいな言い方をされるんですけど、でも現場では必死になってやっているんですよ。接種券だって印刷をしている。なのに、前倒しをせいと。そうすると、接種券をまた印刷しなければならないとかね、そういったことを繰り返しやっているんですね。

ですから、私はどちらかというと、国がもっと早くワクチンを確保した上で、落ち着いていたときに、6か月の接種でどんどん踏み切れればよかったんですね。それができなくなったので、前倒し、前倒しと言っていますが、今の段階でも、いわゆる64歳以下のワクチンの供給ははっきり言って、いわゆる供給見通しというのは、国は、大臣は4月4日までに8割のワクチンを入れるとかと言っていますが、我々にはまだ詳細な配給の通知がないんですよ。

ということなので、これもやっぱりもっとも国に対して物申さなければいけないというふうに思っております。県市長会等を通じて、国にいろんな意見を申し上げたいというふうに思っております。

○議長（植田博巳君）

中野議員。

○13番（中野康子君）

よく分かりました。それで、リニアですけれども、市長が考える担保というのは一体何だろうなど、お話の中で伺った。山梨県に行ったときに、30年間にお金の補償であるそこは調印しているんですね。だから、その辺が私にとっては、やはり解せない部分だったんですよ、あのとき行ったとき。その部分をちょっとお聞きしたいのと、本当に県内1位の接種率ですよ、コロナワクチンが、牧之原市は。本当に職員が頑張っているのはよく分かっています。本当に今、市長がお話いただいたので、ワクチンのほうはよく分かりましたので。

○議長（植田博巳君）

杉本市長。

○市長（杉本基久雄君）

私が言った担保ですよ。最低限、これは担保していただきたいというのは、いつも話をしていますが、JR東海がもうからなければ、例えば50年後100年後、人口減少とともに、赤字を垂れ流す。これ以上やったらJR東海が破綻してしまうというようなことがあるかもしれません。万が一。そういったときに、誰が未来永劫回し続けるんだと。そのときにポンプを回すのをやめて、蓋をして水位上昇ができるのかどうか分かりませんが、そういったことを未来永劫、百年先も千年先もいわゆる人工的に戻すということは、人工的に戻さないと戻らないわけですよ。

ですから、それを戻すことを前提に中下流域は影響ないと言っているわけですから、私は千年、二千年しっかりと担保してもらいたいと。それはJR東海じゃなくて、いわゆる国がしっかりと担保すべきだというふうに思っていますし、国が前面でなければ駄目だと。いわゆる国策じゃないですけど、国家プロジェクトでやっているんですから、それくらいやっぱり国会議員は、国は責任を取るべきだと。それが取れないようならやめるべきだというくらいに私は思っています。

○議長（植田博巳君）

ほかに。

大井議員。

○11番（大井俊彦君）

令和4年度の当初予算について、少し伺いをいたします。国の令和4年度の地方財政対策で言わせると、コロナ禍の中でかなり厳しい財政状況とはいえ、税収の伸びが見込まれるという捉え方をしているんですけれども、これについては、どの根拠をもって税収の増が見込まれるというふうなことを言っているのか。

それと、もう一つは、地方交付税の財源の不足分に充てられる臨時財政対策債が大幅に減少されるということですが、これらの対応とか、詳しい内容を少し説明をしていただきたいと思います。

○議長（植田博巳君）

杉本市長。

○市長（杉本基久雄君）

詳細については担当部長のほうからお答えをしますけれども、我々が聞いている国からの情報

ですと、日本経済は過去最大だというような言い方をしているんですね。法人税等の税収はかなりあるというふうに見込んでいるということから、臨時財政対策債を減らすというような言い方と、それから交付税を増額するというようなことは言っています。

ただ一方で、我々は今、税務課のほうの市内企業の聞き取り、アンケート調査等をやっていますと、そこまで伸びないだろうというようなのと、少しギャップがあるんですね。ですので、先ほどああいう言い方をさせてもらったんですが、少し我々としても、国の見方と我々の地方での、この場での我々の見立てと少し違うところがあるので、いわゆる税収増になるから臨時財政対策債は切るよみたいな言い方とか、あるいは交付税を減らすみたいなことを言われても、それはかなわない話で、我々は我々の見立てがあってしているわけですが、最終的に令和3年度の見込みも確かに上がっています。ですので、これもまた詳細は部長から説明しますが、結果的には上がっているということですから、国は国なりに調査しているんだろうということがありますので、ここはまだまだ分析中ということなので、はっきりしたことを言えませんので、分かっている範囲内で部長のほうから説明をさせます。

○議長（植田博巳君）

企画政策部長。

○企画政策部長（辻村浩之君）

まず、国の税収の伸びの考え方ですけど、どの部分で伸びていくという詳細把握していない部分がありますけど、トータルでやはりコロナ、その当時はもう少しコロナがこういう状況にならない状況だったと思うんですけど、経済的に伸びていくんじゃないかということで、国は令和4年度全体的には伸びていくというような方向を示しています。実際には、今月の末に、先ほど市長からも説明ありましたけど、地方財政計画が出てきますので、その時点でどういう方針が出てくるかというのも再度、今の編成している予算と少し比較をしたいなというふうには考えています。

それから、あと臨財債の関係ですけど、やはりこれも先ほどの税収の伸びからということで、国では令和4年度、3分の1ぐらいの臨財債というふうに考えています。当初、市では臨財債、もう少しつくだろうということで、今まで報告した中では臨財債をちょっと上げてありますけど、やはり国の方針が今の時点では出ていますので、それに合わせると、数億円、臨財債をちょっと落とさなければならぬというように、今のところは考えています。

あと、臨財債で落とした部分を埋めるにはということも考えていかなければならないんですが、やはり税の関係が伸びるという話がありますので、先ほど市長からもありましたけど、市として、あとどれぐらい税の見通しを立てるかというのを、いま一度、税務課にも検討していただくというふうには考えています。

最終的には、この前の常任委員会でも報告をさせていただきましたけど、歳入と歳出の差が16億5,000万円ほど、現在ございます。これを、やはり地財計画とか、県の財政措置、予算措置の状況を見まして、再度今月末までに調整しまして、やはりその不足分については財政調整基金、

それから減債基金等で調整をしていくしか、方法がないのかなというふうには考えています。

以上でございます。

○議長（植田博巳君）

大井議員。

○11番（大井俊彦君）

やっぱり国の見立てと地方の見立ての違いというか、ギャップというか、その辺が予算編成に大きく影響を及ぼす部分だと思うんですけども、その中で臨財債については、予算編成で最終的に調整を図る中で大事な財源というか臨財債ですけども、これが国全体でいくと、国は税収は伸びるという見込みを立てているわけですよね、現在。そうなってくると、交付税は下がってくるわけですよ、全体的に。そうすると、そういう考え方を市としても予算編成の中でちゃんと見極めていかないと、最終的な決着をつけるときに、財源あるいは歳出等についてもなかなか難しい部分があるかとは思いますが、その辺についてはどうなんですかね。

○議長（植田博巳君）

企画政策部長。

○企画政策部長（辻村浩之君）

今の件でございますけど、先ほどの繰り返しになりますけど、国の地方財政計画、それから県の予算措置を踏まえて予算編成をしてみたいです。

以上です。

○議長（植田博巳君）

ほかに。

濱崎議員。

○9番（濱崎一輝君）

新型コロナウイルス感染症についてなんですけれども、現在、県の事業として新型コロナの検査を無料で受けられるというものが今月末まで行われておりますけれども、これからオミクロンの感染症の拡大というのが、ますます、年内どんどん拡大していくのかなということを考えると、1月末で終わってしまうのはいかがかなと思うんですね。これが県の事業ですから、市のほうで決められませんが、完全にこれ今月で終わってしまうのか、延長の予定があるのか。分かる範囲で結構ですので、教えていただければと思います。

○市長（杉本基久雄君）

県の事業？何が？

○9番（濱崎一輝君）

新型コロナウイルスの無料検査。

○議長（植田博巳君）

健康推進部長。

○健康推進部長（鈴木郁美君）

この無料検査につきましては、県の事業になります。県のほうで実施を計画しておりますので、延長するかどうかというのは、もちろん財源が国になりますので、国・県が感染状況を見てどう考えるかということになるかと思っておりますので、その情報を確認しながら、また市民の皆さんには、延長されるようであれば、きちんと周知をしていきたいと思っております。

○議長（植田博巳君）

濱崎議員。

○9番（濱崎一輝君）

県の事業ですので、市単独で決められないというのは当然分かりますので、当然ですけれども、いろんな市町村のほうから要望が来れば、多分県のほうも延長というのを考えていただけるかなと思うものですから、ただ聞くだけじゃなくて市のほうからも要望を出していただきたいなというのがあるものですから、また逐一、分かればご連絡していただければと思います。

○議長（植田博巳君）

健康推進部長。

○健康推進部長（鈴木郁美君）

議員がおっしゃるとおりだと思います。また状況を見まして、きちんと県のほうには要望を出していきたいと思っておりますので、よろしく願いいたします。

○議長（植田博巳君）

石山議員。

○1番（石山和生君）

ふじのくに出会いサポートセンターについてなんですが、これは市は負担しているのか。お金の部分で負担があるのかどうかをお聞きしたいです。

○議長（植田博巳君）

杉本市長。

○市長（杉本基久雄君）

市も年間8万円余の負担金を払うということでございます。

○議長（植田博巳君）

石山議員。

○1番（石山和生君）

県単位で見たときにこの施策、とてもいいものだと思っておりますが、牧之原市単位で見たときに、これは人口が流入が加速的になるか、流出が加速的になるかのどちらかになるかと思っています。それは魅力次第で変わってくるものだと私は認識しているのですが、市としてはどのような認識でいるのでしょうか。

○議長（植田博巳君）

杉本市長。

○市長（杉本基久雄君）

私は、いつもいろんな団体、あるいは市民トークのときもお話をするんですが、牧之原市内の男性25歳から39歳までの未婚率が52%なんですね。女性が35%ということで、若い女性が男性よりも1割強少ないという、この現状があるわけですね。52%のそうした未婚の男性、あるいは女性も含めて、結婚願望があるかないかというのをアンケート結果等を見ますと、8割以上が結婚願望があるんですね。しかしながら、出会いの場が築けないというところが大きな原因でありまして、これまでも牧之原市では、市内あるいは市外の人を対象にした出会いの場の、いわゆる婚活事業というのをたくさんやってきました。しかしながら、例えば商工会に委託した事業なんかは80万円とか100万円とかと委託しますが、結果として成功するというケースは、本当の数件なんですね。ですから、非常に費用対効果が悪いわけですね。

ですので、私はこの事業自身、私がたしか去年の知事との5市2町のサミット、会議ですね。知事との会議の中で私が、牧之原市から要望を出した事業だったんです。ということは、なかなか市単独でこのAIシステム、マッチングシステム等をやろうとすると、このシステム構築に非常に高額な費用もかかります。今度、市単位だと、なかなかそういった人たちが登録をしづらいというのがあるということですね。ですから、県単位に広がると登録がしやすい、あるいは選択肢が非常に増えてくるということから、私は、まず流出、流入ということよりも、牧之原市民の25歳から39歳までの若者が5割を超える未婚率で、しかも結婚願望があるのに出会いの場がない。これは、私は市民だからとか県民だからとかという前に、人として非常にそこは何とか、そうした願望をかなえてあげたい。これが私、SDGsとも持続可能な社会、町村単位で境目をつくって鎖国をするんじゃないなくて、取る取られたじゃないなくて、やはりそういった市民の皆さんが一人でも多く、そうした家庭を持って幸せな家庭を築いてほしい、そういった思いなんですね。

もう一つ、今回、県に提案させてもらっているのは、この出会いの場の、例えば出会える。そうしたときに、いろんなイベントをやることも計画を県はしているんですね。そういうときに牧之原市内でそうしたイベントをやっていただくことによって、そのカップルが、市外のカップルが両方来て、ああ牧之原はいいねという、逆にダブルで流入してくる可能性もあるということです。そこはやはりシティプロモーションで牧之原市の魅力をそうしたエリアマッチングの中にもしっかりと配信していろんな事業を取り組むということが大事かなと思っているんですね。

ですから、そんな形でやっていきたいというふうに思っていますので、またいろんなアイデアがあったら、ぜひご提案いただけるといいなというふうに思っております。

以上です。

○議長（植田博巳君）

石山議員。

○1番（石山和生君）

今、市長がおっしゃったとおり、やっぱり魅力があれば引き込んで、これは大きなチャンスかもしれないので、しっかりとシティプロモーションして魅力がある町だということをすれば、結婚した後、市外の方が来てくれるという可能性もあるので、そういう認識でいっちゃるという

ことが分かったので大丈夫です。ありがとうございます。

すみません、話の腰を折ってしまったかもしれないです。申し訳ないです。

○議長（植田博巳君）

ほかにごいませんか。

原口議員。

○10番（原口康之君）

すみません、1点だけお願いします。昨日の津波の注意報の件ですけど、これで昨日予定されていた分の行事というか、その中止ということだけですけど、その後の対応というか、全然中止なのか、延期というか、その後やる予定があるのか。その辺を少し教えてください。

○議長（植田博巳君）

産業経済部長。

○産業経済部長（田形正典君）

昨日予定していたイベントの中にシーサイド・マルシェ・サガラがありますけれども、これはシーサイドパークで予定しておりました。その後については、まだちょっと確認をしておりませんので、また主催者のほうに確認をしまして、分かり次第ご連絡、マルシェのほうは月1回定例でやっていくということでしたので、恐らく定例でやっていくんだと思いますけれども、その辺は確認いたします。

○議長（植田博巳君）

ほかにごいませんか。

〔「なし」と言う者あり〕

○議長（植田博巳君）

それでは、市長報告については終了いたします。

ちょうど1時間がたちましたので、10時10分まで休憩とさせていただきたいと思います。よろしくをお願いします。

〔午前 9時55分 休憩〕

〔午前 10時03分 再開〕

○議長（植田博巳君）

引き続き、会議を再開いたします。

3 議長・関係議員・委員会報告 (1) 会議等の結果

○議長（植田博巳君）

3番の議長・関係議員・委員会報告を行います。

最初に会議等の結果について、報告をお願いいたします。

先に私のほうから報告させていただきます。

12月27日、牧之原市消防団夜警巡視を行いました。夜8時から第7分団、8分団、9分団を回ってまいりました。団員からは、やはり団員の成り手が少ないという声と、それから分団詰所が老朽化しているということで、この辺の改善要望が出されたところであります。

1月1日は、R I D E O N M A K I N O H A R A 初日の出の祈願式が行われました。参加していただきました方、ありがとうございます。大変いい日の出で、今年もいい年になるのかなというふうな実感をしたところでございます。やはり来ている方も相当多く、初日の出を拝みに来ておりました。

1月4日が牧之原市新春顔合わせ会ということで、これについては先ほど市長から報告あったとおりです。

それから、1月5日が県庁の新年挨拶回りということで、私と副議長と市長ということで挨拶に参りました。知事、難波副知事、出野副知事、篠原戦略監の方々に新年のご挨拶をさせていただいたところであります。

1月9日が、牧之原市成人式ということで、307名の方が出席をされたということで、立派な成人式が行われました。引き続き、消防団の出初め式が行われまして、出席していただきまして、ありがとうございます。各表彰式と色とりどりの放水が行われたというところであります。

1月10日が榛南経済人賀詞交歓会ということでい〜らで行われまして、井林代議士が基調講演をされまして、アフターコロナを見据えた日本と榛南地域の進むべき未来戦略について、講演がされました。

以上でございます。

○議長（植田博巳君）

村田議員。

○15番（村田博英君）

12月21日、吉牧広域施設組合議会臨時会が行われました。議案は3件ありまして、補正予算について、それから監査委員の選任につきまして同意を求めるということと、3件目は専決処分、構内において事故が発生しまして損害賠償ということになりましたが、100%吉牧の職員の責任だということで報告がありました。

それから、1月14日、ここに書かれている榛原総合病院組合定期監査ですが、1月24日に定期審査がありますので、そこで併せてやるということになりましたので、以上でございます。

○議長（植田博巳君）

中野議員。

○13番（中野康子君）

12月23日、大井上水道企業団議会の臨時会がございまして、私が副議長に就任させていただくことになりました。

以上です。

○議長（植田博巳君）

大井議員。

○11番（大井俊彦君）

12月24日ですけれども、例月現金出納検査を行いました。一般会計分と水道会計分です。以上です。

○議長（植田博巳君）

原口議員。

○10番（原口康之君）

12月20日、御前崎市牧之原市学校組合議会がありました。議案について4件。副議長の選挙と組合監査委員の選任、それとあとは、補正予算第2号と、御前崎市牧之原市学校組合の教育委員の任免について、全てにおいて可決されました。副議長については、私が副議長になって、監査委員は種茂議員で、あと教育委員については、牧之原市新庄の松下さんに決まりました。以上です。

○議長（植田博巳君）

私、1点、報告漏れがありましたので、報告させていただきます。

1月11日、静岡県西部地区市議会議長協議会が行われました。私と副議長で、あと事務局長とで行ってまいりました。内容的には会議の中で議案審議がございまして、第1号議案が、湖西市が提出しました「長期化する新型コロナウイルス感染症の影響下における地方自治体に対する財政的支援の充実について」、第2号議案については、御前崎市が提出いたしました「子供の移動経路における交通安全対策の推進について」の2点が審議され、両議案とも採択され、答申することになりました。

次回の開催市については湖西市ということになりました。

以上でございます。

ほかにはございませんね。

〔「なし」と言う者あり〕

○議長（植田博巳君）

以上で、会議等の結果については終了いたします。

3 議長・関係議員・委員会報告 （2） 議会運営委員会

○議長（植田博巳君）

次に、（2）議会運営委員会から報告を願います。

大石議員。

○14番（大石和央君）

議会運営委員会からです。

1月5日の会議についてでありますけれども、まず、11月定例会の振り返りということであり、ます。この中で1点ですけれども、まず前回の全協のときも議長からお話がありましたけれども、

再度確認の意味で、一般質問を作成するに当たりまして、事前の、当然皆さん勉強はすると思えます。そうした意味で資料請求を行政に求めるということでもありますけれども、当然作成されている公文書、行政文書については求めることができます。新たに作成するということでもあります、議長を通じて求めるという形になります。その求め方についても時間を十分取って職員の負担にならないようお願いをしたいということの確認であります。当然、昼休みに資料をもらいに行くというようなことはやめていただきたいということでもあります。

それから、もう1点、これも一般質問に関することでもありますけれども、一般質問については、議員必携を皆さんお持ちであると思えます。この中で、一般質問をするに当たりまして、その内容というのは大所高所からの政策、これを建設的に議論するということでもありますので、地域に偏ったり、一つの小さなものに捉われるというような一般質問ではなくて、やはり政策的なところの展開をお願いしたいというような意見がありました。

次に、学校再編計画における今後の議会対応についてと、これも確認でありますけれども、所管は文教厚生委員会でありますけれども、今後全体でやはり、この課題については議論しなければならないということで、全員協議会の場でも行うということとするということを確認をいたしました。

次に、令和4年度議会報告会ですけれども、従来は年1回以上開かなければならないという議会基本条例の中にうたわれております。そして、予算決算の議会後、3か月以内に開くということになっています。

去年は新型コロナウイルス感染症がまん延したために動画配信ということをしてきましたけれども、一応議会報告会を開くという方向で、コロナが感染が拡大したならば、当然別のことを考えなければならないということになりますけれども、その場合、4月か9月、いわゆる予算議会が終わってから、あるいは決算議会が終わってからということになりますけれども、やはり4月だと皆さん、まだ議会構成から、新たになった議会の中で議会報告会を持つというのは、なかなか困難であるということから、9月の定例会、決算議会を経て10月に予定をしようということを決めております。詳細のほうは、これから詰めていくということになると思えますので、お願いをいたします。

そして次に、議会運営委員会の視察研修についてということでもあります。当初、今週計画をしておりましたけれども、コロナ感染症が拡大をしたということで、先週、中止をするという決定をいたしました。

次に、要望書の取扱いについてであります。資料1に2件、要望書が来ております。いずれにしても、いずれも郵送によるものでありますので、資料配布という形を取りますので、お願いをいたします。

次に、その他ということでもありますけれども、その他、視察研修と、それから議員勉強会については、その他のところで行いますので、後ほど報告を事務局のほうからいたしますので、よろしく申し上げます。

以上です。

3 議長・関係議員・委員会報告 (3) 総務建設委員会

○議長（植田博巳君）

次に、総務建設委員会からの報告をお願いいたします。

太田議員。

○11番（太田佳晴君）

1月11日に総務建設委員会を開催しまして、既に決められております所管事務調査、持続可能なまちづくりについてということなんですけれども、大変範囲が広範囲にわたるものですから、もう少しポイントを絞って調査、研究を進めたいということで、議論をいただきました。具体的には、市の人口減少を少しでも食い止めるために農業、漁業また市内の商工業全般の側面から市の産業について持続可能なまちづくりを調査、研究をしていこうというような、そんな方向性を決めました。

以上です。

3 議長・関係議員・委員会報告 (4) 文教厚生委員会

○議長（植田博巳君）

次に、文教厚生委員会、お願いします。

中野議員。

○13番（中野康子君）

1月12日に、所管事務調査事項につきまして開きました。人口増加につながる魅力ある子育て施策についてと、高齢化社会対策について、この2点は非常に関連性があるということでこの2点を同時に進行させていき、2年間で提言書としてまとめていきたいと思っております。このような結果になりました。

以上です。

3 議長・関係議員・委員会報告 (5) 議会広報特別委員会

○議長（植田博巳君）

次に、議会広報特別委員会、お願いします。

原口議員。

○10番（原口康之君）

12月22日、1月6日に広報委員会を行いました。議案については、2月15日の発行に向け編集作業を行いました。それと、議長及び副議長、各担当委員長、議員の皆様方には、原稿の提出をありがとうございました。

以上です。

3 議長・関係議員・委員会報告 (6) 議会改革特別委員会

○議長（植田博巳君）

次に、議会改革特別委員会。

村田議員。

○15番（村田博英君）

議会改革特別委員会ですが、まずは、議会基本条例の見直しをいたします。然る後に開かれた議会となるようなテーマをつくっておりますが、もう一つ、議会報告会についての新しいやり方、これは非常に重要だと私も思っていますので、これについてのチームをつくって進めていきたいなと思っております。いずれにしても、議会基本条例を、まずは見直しをやってから進行したいというふうに思います。

以上です。

○議長（植田博巳君）

ありがとうございました。

4 協議事項

○議長（植田博巳君）

次に、4の協議事項でありますけれども、協議事項は今回ございませんけれども、よろしいでしょうか。

〔「異議なし」と言う者あり〕

5 その他 (1) 視察研修について

○議長（植田博巳君）

次に進みます。5のその他でございます。

(1) 視察研修については、事務局のほうでお願いいたします。

事務局次長。

○事務局次長（本杉裕之君）

それでは、その他の(1)視察研修についてということですが。

視察先につきましては、中部電力株式会社浜岡原子力発電所になります。日時ですけれども、2月8日火曜日、現地を9時半から16時半までで視察を行います。それで、相良庁舎の玄関前に8時45分までに集合していただきまして出発をしたいと思っております。よろしく申し上げます。

対象は全議員になります。

それと、また近くなりましたら、詳細はお知らせしますが、当日、身分証明書、運転免許証とかマイナンバーカード、そちらのほうを持参するようにお願いします。あと、屋外のほうの視察もしますので、防寒着、そちらの用意もお願いします。

もう1点、放射線の管理区域にも入ることになりますので、更衣室におきまして防護服に着替えていただくこともあります。それで、その区域から出るときに除染をするような形にもなりますので、そのときに下着にまでなってもらって除染になります。そのため、スーツとかワイシャツ、ネクタイではなくて、着替えの簡単にいくようにということで作業服で、それでノーネクタイ、そういった形でお願いしたいと思います。また改めて通知をします。

それと、これも今コロナの状況が増えている状況ですので、これも視察研修予定どおりやれるかどうか、また変わるようでありましたらご連絡をします。

以上です。

○議長（植田博巳君）

ありがとうございます。

5 その他 （2） 議員勉強会について

○議長（植田博巳君）

（2）議員勉強会について、これも事務局のほうでお願いいたします。

事務局次長。

○事務局次長（本杉裕之君）

（2）です。議員勉強会について、こちらが2月15日火曜日、13時から14時半ということで、こちらの4階大会議室において行います。内容につきましては、第6次エネルギー基本計画の概要についてということで、説明者は経済産業省資源エネルギー庁の原子力立地政策室長による勉強会となります。こちらの対象も全議員と当局側の部課長職を対象に考えています。

以上となります。

○議長（植田博巳君）

ありがとうございます。

5 その他 （3） 議員研修会について

○議長（植田博巳君）

（3）議員研修会について、これもいいですか。

事務局次長。

○事務局次長（本杉裕之君）

続きまして、（3）議員研修会についてということで、こちらは2月16日の水曜日、13時半から16時半を予定しております。場所はこちらの4階大会議室、内容につきましては対話の必要性、ファシリテーションスキルを使った場づくりということで、講師としてはMusubiの代表、原口佐知子さんをお願いして、全議員を対象に行う予定です。

以上です。

○議長（植田博巳君）

ありがとうございます。

5 その他 (4) 「牧之原市議会条例・規則・申し合わせ事項等」の差替えについて

○議長（植田博巳君）

次、(4)「牧之原市議会条例・規則・申し合わせ事項等」の差替えについて。
事務局係長。

○事務局係長（大塚康裕君）

それでは、私のほうから皆さんの机の上に置いております、クリップ止めをしております書類につきまして、説明をさせていただきます。

こちらは、改選のときにお渡ししました、この青色のファイル、差替えになります。こちらを差替えをお願いしたいということですが、内容としましては、11月定例会で改正を行いました専門部会を廃止にしたことに伴いまして、ページ番号が変わっておりますので、その差替えのほか、政治倫理規程とタブレット端末の貸与規程、それからタブレット端末の使用に関する申し合わせ事項を前回配布するのを忘れておりましたので、大変遅くなって申し訳ありませんけれども、今回差替えと一緒に配布させていただくものです。本日、持ち帰っていただきまして、必ず差替えをしていただきまして、最新のものに変えていただくようお願いいたします。

以上です。

○議長（植田博巳君）

ありがとうございます。協議事項は以上で終了いたしました。
原口委員。

○10番（原口康之君）

すみません、先ほど学校組合のほうで報告を忘れてしまいました。

その後、学校再編についての案が全員協議会の中で説明されました。すみません。

以上です。

○議長（植田博巳君）

ありがとうございました。以上で議員全員協議会を終了いたします。お疲れさまでございました。

[午前 10時25分 閉会]